武蔵野東教育センター会報
Newsletter of Musashino Higashi Center for Education and Research

“Heart to Heart”

心から心へ　わかちあう　あたたかさ

第4巻 第1号（No.11）
発行日 平成21年7月11日

目次:

心に余白を残して	1
コラム：自閉症教育のむかし、今 その二	2
療育プログラムのようす	2/3
多様な連携が大切です	4
新型インフルエンザについて	4
ご案内	4

願いを込めた短冊の数々

心に余白を残して

武蔵野東教育センター所長　長内博雄

新年度も7月を迎え、教育センターもあと2週間ほどで夏休みに入ります。

つい先日まで、当教育センターのロビー付近には恒例となった七夕の竹が3本据えつけられ、子どもたちの願いをこめた短冊がその枝に飾られていました。暑さを感じる頃に竹に結ばれた短冊。誰もが、「ああー、七夕が近づいたのだな」と思います。都会では、自然の多い地方ほどに季節の移り変わりを身体で感じないかもしれませんが、一般に日本では、四季の移り変わりやそれに伴う折々の行事を通して、一年間の流れを身体に刻み込んでいるような気がします。『○月になると△△祭りがやってくる。』と、なじみの行事などを予測できることが、長い間人々の心のどこかに安心感をもたらしてきたに違いありません。

自閉症の子どもたちには、予定がわかっていないと極度に不安になる子どもが多いと言われますが、これは至極当然の心理であると言えるでしょう。その日の予定がわからないことには動きようがなく不安になるのは、私たち誰にとっても同じことです。

このように考えると、お子さんにその日のことやある程度の期間のことを予測できるように配慮してあげることは、むしろ当然なことであると気づきます。一ヶ月も前から親戚の結婚式の出席のことを毎日子どもに言い聞かせた結果、当日はじつに物静かに振舞ってくれたなどという成功談を、よくお母さん方から聞くことがあります。

この夏休み中には、サマープログラムに出席するお子さんもいますが、各家庭で休み中の予定を本人の希望を取り入れながら決めてみてください。視覚的な工夫をして子どもと一緒に予定表を作り上げることは、とても有意義なことに思われます。

ところで、私たちの周囲は雑多な情報であふれかえっています。暑さに加えて煩雑な情報を無差別に受け入れていることは、精神衛生上もよくない気がします。

どこまでの情報を必要とするかはそれぞれですが、有効な情報を適切に取り入れていくためには、常々頭の中を整理しておく必要があるのではないでしょうか。脈絡のない情報をどんどん脳の中に溜め込んでいくことは、常識的にも健康的ではないでしょう。私たちが否応なしに情報過多な世界に住まわざるを得ないのであれば、意識的にその処し方を考え、ある程度シンプルな生活観を身につけておくことが賢明であると思われます。頭のフォルダを整理して余白を残し、いつでもタイミングよく書き込める感度を保っておくということです。

ストレスの多い生活の中で基本的におすすめしたいことの一つに、不安恐怖を煽られたり卑俗に過ぎる情報などに過度に入り込まないようにするということがあります。この類の人のうわさやマスコミ情報などは、えてして繰り返し流されます。何度も繰り返される情報やニュースの、人の心に対する影響力というものは案外大きいものです。このような役にも立たない負の想いを自らかきたてて増幅させてしまうことが、人の心の動きにはよくあることだからです。家の中を掃除したり、もはや使わなくなった衣類を処分したりすることで気持ちがすっきりするように、多少強引にでも、意識をシンプルに保って心の余裕を作り出すことは、現代に生きる私たちの生活のよき知恵であるような気がしています。

時折に吹くさわやかな風を親子一緒に楽しめるような、活動的で健康的な夏を過ごしてくださることを願っています。

コラム　障害児教育にたずさわって（２）

「自閉症教育のむかし、今」　その二

大南　英明　(学園アドバイザリーボード)

昭和38年4月、墨田区立本所中学校へ異動し、三鷹市とは違った地域、下町で仕事をすることになりました。当時は、中学校の特殊学級を卒業後は就職する以外にどこへも行く場所のなかった時代で、ほとんどの生徒は何度も工場で実習した後、就職しました。万年筆のスポイト用のゴムの管を100本ずつ板にさしていく作業、ハイヒールのかかとの部分の微妙に異なる大きさの皮をはり合わせる作業などに、会社で1、2番の正確さと速さで仕事ができる人もいました。

昭和40年代では、障害のため就学猶予･免除をせざるをえない子どもたちがたくさんいました。私は「なぜ、この子たちは学校へ入れないのか」と疑問をもち、関係方面に問題を投げかけていました。昭和45年7月より第2･第4日曜日に未就学の子どものための幼児教室を開きました。20人近い子どもが集まり、その半数は、自閉症もしくは自閉傾向といわれていました。この年、私は教育大学（現筑波大学）へ内部留学生として研究、研修に出ており、学校を離れていましたが、学校へ行けない子どもたちのことが気がかりでした。そこで、墨田区教育委員会の担当者、保護者、校長先生、先生方の代表と会を設け、当時の特殊学級の入級基準に合わない子どもたちの就学を検討しました。

その結果、昭和47年4月、墨田区立二葉小学校に新しい学級が設けられ、9名の子どもたちが入学できました。その中で1年は6名で、いずれも自閉症もしくは自閉傾向と診断されていました。この学級の設置は、東京都が行った障害児の希望者全員就学の2年前、養護学校教育の義務制の実施より7年も前のことでした。これまで、東京都内では、自閉症･情緒障害学級は、通級制でしたが、墨田区は、固定制の学級として運営しました。

このコラムは４回シリーズでお届けします。

療育プログラムのようす

ダンス教室　音楽に合わせて身体を動かすことで筋力や柔軟性などの基礎体力を養い、表現する喜びを体感することをめざして今年度開講しました。現在は小1～3年の女子5名が受講しています。柔軟･腹筋運動から始まり、ウォーキングや足上げなどの基本動作の後、リズムに合わせてスキップやギャロップを行ってきました。今はツーステップの練習中です。年度末には簡単な作品を踊って発表したいと夢を膨らませています。(新堂)

レオタードできまり！

一輪車・自転車教室　自転車教室の4名は、全員初心者からのスタートでしたが、中央公園でのサイクリングを楽しめるほどの力がつきました。一輪車教室は、まさに「七転び八起き」。手足をすりむき、顔を打ち…。2名とも無事？乗れるようになりました。保護者からは、根気よく努力する姿勢など、心の成長も培えたことが何よりとのコメントをいただきました。(高松)

乗れるようになりました

体育教室　幼児から6年生まで、それぞれの課題に精一杯取り組み4月から充実した3ヶ月を過ごしました。年中･年長グループは「ポックリ」、小1･2年生はホッピングと自転車、小5･6年生は竹馬が今学期のハイライトでした。どの運動も、筋力はもちろん、バランス感覚や身体各部の協応を楽しみながら培うことができる優れものです。親子で練習する時間には、「ほら、がんばれ、もう1回！」「できた、できた！」 プレイルームが燃えるような熱気に包まれました。(鈴木)

「お母さん、私乗れてる？」

言語プログラム　今年度は年中～小4まで様々な年齢の子どもが参加し、それぞれに合わせて身体を使っての発声や詩を暗唱し抑揚を付けて読む練習などをしています。今年度の言語の目玉は、PCを利用した練習です。動画に合わせて舌の運動や発声練習をし、その場で再生すると自分の姿を見て照れて笑顔を見せたり、PCの声に合わせて発声することもあります。また、音声を聞いて絵をクリックすると、正解の時は「チャラララララン」ときれいな音で、外れたときは「カン」とハズレの音を聞き分け楽しんでいます。さあ今日も、チャレンジ！！(計野ちあき)

よーく聞いて選んでね！

音楽教室　歌唱･器楽･リズムあそびを柱に活動を展開しています。年中･年長グループでは、手遊び歌やペープサート、しかけ教材を使用して「いろいろな色がありますね」や「こぶたぬきつねこ」などの曲を楽しみました。小学生は、大好きな鍵盤ハーモニカの課題で盛り上がりました。1･2年生は、簡単な曲からレパートリーを増やし、3･4年生は、5本指を使用した演奏に取り組んでいます。楽器の演奏練習だけでなく、歌唱やリズムあそび、ハンドサインなど、同じ課題曲でもいろいろな楽しみ方ができました。これから、どのようなハーモニーが奏でられていくのか、乞うご期待！(児玉)

ペープサートを使って「いないいないばあ！」

幼児　4月当初は物静かだった子どもたちですが、今では、「こんにちは」を合図に元気いっぱいの声が教室に響いています。年少・親子では、絵描き歌や視覚教材を使用しながら視線集中や手遊び歌、製作への興味を広げています。年中では、一人ひとりの課題に応じてのり、はさみ、クレヨンなどをつかって季節に応じた絵画や製作を行い、作ることの楽しみや一人でできたという喜びを育んでいます。年長は、えんぴつを使用した学習が始まり、書くことを楽しんでいます。また、プリントだけではなく、実際に視覚教材や大小異なる絵や物を触り、声に出して言うことで「大小」「長短」などの理解を深めています。個々に応じた活動や課題を通して「できた!」という喜びを積み重ねてさらなる自信につなげていきたいと思います。(児玉)

子どもたちに大人気のうちわ

１年生　「せーの、じゃんけんぽん！」「勝った！」「あー、負けた！」　など教室には大きな声が響き渡っています。今月の歌「ぐー、ちょき、ぱあ」に合わせて、ゲームや活動の順番を決める時にも積極的にじゃんけんを取り入れて活動しています。学習では、10までの足し算にじっくりと取り組みました。また、ひらがなに親しむために続けてきた詩の音読も、リズムに乗って読めるようになりました。4月から様々な「初めて」に挑戦してきた1年生。夏休みにはどのようなことに挑戦するのでしょう。真っ黒に日焼けして、一回り大きくなった子どもたちに会えることを楽しみにしています。(本田)

「せーの、じゃんけんぽん！」

２年生　「かっこいい2年生はどこかな？」という言葉がけに、「はっ」という顔をして背筋を伸ばす子どもたち。「2年生」というプライドなのでしょうか。ちょっと難しい漢字が書けたとき、筆算で計算ができたとき、ボールでドリブルができたとき、「さすが2年生だね。」と褒められると得意げな顔をして、更に頑張ってくれます。先月から「かっこう」を鍵盤ハーモニカで演奏していますが、最初は「難しいよ。」と困った顔をしていた子も繰り返し行うことでメロディを覚え、皆と合わせて音が出せるようになってきました。できるようになったことを自信に、今後も色々なことに挑戦していきましょう。(後藤)

息を合わせて♪

粘土で人の顔を作りました

３年生　図工では、粘土の製作を行っています。担当者の手順を見ながら、手元の粘土板に貼り付ける作業が素早くできるようになってきました。作品を完成させた喜びは子どもたちの表情からもうかがえます。これに加えて、先日ふと目にしたことがありました。4月には布巾を絞ることができていなかったのに、両手でねじって絞ることができていたのです。センターで使っている油粘土は、紙粘土よりも適度な固さがあり、継続して手を動かしてきたことの効用かと思っています。(入江)

「みんな聞いて、
こんな楽しいことがあったよ！」

４年生　4年生になって3ヶ月たちました。子どもたちの身長が伸びて大きく成長していると同時に、いろいろなことを考え、人に伝えられるようになったことを感じています。毎回、「みんなに伝えたいこと」というテーマで発表をしています。楽しかった遠足や運動会、おいしかったお弁当や朝ご飯、楽しい休日のお出かけ、そして、トピックス。事前に保護者の方から情報をいただいてアドバイスをしていますが、皆楽しそうに発表しています。発表が終わると「みなさん、質問はありますか？」という子どもや、話を聞いて「あっ。ぼくも、この間〇〇へ行ったよ。」とその内容に対して話に加わる子どももいます。これからも、発表の時間だけでなく、人にどのように話したら内容が伝わりやすいのか、皆で勉強していきたいと思います。(宮下)

小遣い帳と収支の記録

５・６年生　国語・算数・音楽・体育・図工の学習だけではなく、ローマ字の学習を発展させた「コンピュータ学習」、お金の学習を発展させた「小遣い帳の記入」などを4月から行っています。小遣い帳は、毎月コンピュータ(エクセル使用)に収入と支出を入力し残金の確認の仕方を学んでいます。生活の中で必要な知識を、一つでも多く身につけるために、実際に体験しながらのスキルアップを目指しています。また、カレンダーを利用して日々の天気と気温調べを行っています。これらの活動が、自分でできる記録の残し方の一つとして定着してきています。(藤本)

タイピング練習

コンピュータ教室　4月からタイピング練習を基本に、電卓、デジカメ、ペイントによる絵画製作など、パソコンのいろいろな活用の仕方を学んできました。パソコンの学習はマウス操作だけで進めることができるため、書くこと、読むことが苦手な場合でも興味を持ちやすく、意欲的に取り組めることが利点です。最近は子どもたちが家庭で自主的にパソコンに向かうようになったという報告も聞かれ、これまでゲームなどで遊ぶことが主だったパソコンが、学習や生活を豊かにするためのツールとして活用され始めているようです。(大澤)

多様な連携が大切です

副所長　計野　浩一郎

6月20日（土）に東京地区矯正教育研究会にて講演するために、中野区にある法務省矯正研修所東京支所に行ってきました。今回うかがった東京地区矯正教育研究会の歴史は古く、昭和39年に発足し、青少年の教育に関する研究会として、およそ2ヶ月に1回の割合で例会を行ってきていて、これまで300回以上実施してきているとのことでした。

少年院は、ご存知のように家庭裁判所から送致された少年に対して、「処遇の個別化」の理念の下、再非行防止と健全育成を目指して、矯正教育を実施しています。その少年院の中に、発達上の問題を抱えているために、より一層の手厚い工夫を凝らした支援を必要としている少年たちがいます。そのため外部の講師を招いて研修を実施しているという中の講師の一人として、講演をさせていただきました。講演をはじめようと出席された方の前に立ったときの皆さんの視線がとても熱く、久しぶりに緊張感で押しつぶされそうな気持ちを奮い立たせながら、2時間の講演を何とか無事に終えることができました。

出席された方々からは、「教育目標の設定方法について私たち矯正にも生かすことができる」「保護者とともに考える大切さを実感した」「個々の教育ニーズを満たし、社会に適応する能力を開発していくという点で、少年院の実践とも非常に関連があると思った」「発達障がいの子どもへの教育方法を少年院でも取り入れていく必要がある」「刑事施設、福祉、教育の連携が重要であると感じた」など多くのありがたい感想をいただきました。

先日の第1回セミナーで山口幸一郎先生（早稲田大学客員教授）も話されていましたが、特別支援教育は総力戦の教育であり、多様な連携、教師のチームワーク、保護者の参画、計画の教育（個別の教育計画）などが、ここでも必要であると皆さんが改めて確認していただけ、とてもうれしく思いました。やはり同じ教育に携わる者として、教育する場所は違っても子どもたちの成長発達に対する思いは同じであると強く感じることができた一日でした。今後、機会を作って矯正教育についての情報を皆様にも提供していただけるようにお願いしていこうと考えています。

山口先生の講演の様子

新型インフルエンザについて

新型インフルエンザの感染拡大が報告されています。ご家庭でも感染防止の対策として、手洗いやうがいを励行してください。また、本人やご家族が感染した場合は、必ず連絡してくださいますようお願いいたします。

武蔵野東教育センター

〒180-0012　武蔵野市緑町２-１-１０

電話　0422-53-8585 FAX　0422-53-8595

Email: education-center@musashino-higashi.org

ホームページもご覧ください

http://www.musashino-higashi.org

セミナーのご案内

第２回、第３回ともに今のところまだ空きがございますので、どうぞご参加ください。

Ⅱ．平成２１年１０月１７日（土）10時～15時
　　市川　宏伸（都立梅ヶ丘病院院長）
　　林　佐智代（日本大学松戸歯学部）

Ⅲ．平成２２年　１月２３日（土）10時～15時
　　江國　泰介（日野市障害者生活・就労支援センター）
　　氏田　直子（国立障害者ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ 言語聴覚士）

茶話会のご案内

茶話会を以下の日程で実施いたします。
参加希望の方は申込用紙を提出下さい。

② 平成２１年１０月１９日（月）13時～15時
③ 平成２２年　２月２４日（水）10時～12時

保護者勉強会のご案内

今年度より、共に学ぶ場として教育センターのスタッフから保護者の皆さんへお話しさせていただく機会を設けています。参加希望の方は受付へどうぞ。

② 平成21年 7月17日（金）　10～12
　「発達検査を学習に活かす」　大澤　徹也
③ 平成21年 9月25日（金）　10～12
　「教育センターの体育指導」　高松　明広
④ 平成21年11月 4日（水）　10～12
　「ことばについて」　計野　ちあき
⑤ 平成21年12月11日（金）　10～12
　「音楽に親しむ」　児玉　奈都子